

講演は手足を動かすワークを取り入れるなど、全員参加を促す内容で、一同が積極的に取り組んでいました。現場では「伝えたつもり」でも相手が違う捉え方をしてしまい、すれ違いが生じることがあります。幅広い年代のメンバーが共に働く環境だからこそ、どんな些細なことでも相手がしっかり理解しているかをお互いに確認し合うことが、安全な現場づくりにつながると学びました。素晴らしい大会を企画してくださった運営メンバーに、感謝しています。

建築本部



建築本部

Yさん

開催日: 2026年6月9日(火)

実施場所: 愛知産業労働センター 参加人数: 協力を会社を含め86名

プログラムの内容: 安全表彰、絆栄会会長特別表彰、受賞者の安全宣言、特別講話「アスリートの健康管理法 リスク管理について」

労働災害ゼロに向けた合同大会

協力会社と誓う、無事故の現場づくり

7月の全国安全週間に合わせ、当社建築本部と協力会「絆栄会」合同の安全大会を開催しました。絶対に大きな事故を起こさず、全員が無事に現場から帰るという決意を新たにすべく、当日は安全表彰や安全宣言のほか、元プロ野球選手の吉見投手を招き健康管理の特別講話を実施しました。



総括

互いを思いやる行動で、安全な職場を創る

夏を迎えるにあたり、絆栄会と連携して現場へスポーツドリンクを届けるなど熱中症対策を進める予定です。事故を防ぐには、個人の体調管理に加え、通路に資材を放置しないなど仲間のことを考えた配慮が重要。互いに意見を出し合い、全員が健康で元気に働ける環境づくりに尽力します。

共に取り組む現場の環境改善

パトロールの実績共有と、深まる人命尊重の思い

先日、絆栄会の上原会長に現場の安全パトロールへご参加いただき、転倒の恐れがある作業通路の改善につなげることができました。大会の挨拶で会長からこの実績が共有され、「共に安全環境改善に取り組む」との言葉があったことで、協力会社の皆様の前向きな意欲を感じています。

また、大会中の講話も参加者の安全意識を深めるものでした。当社社長が「家族を悲しませないために無事で帰る」と人命尊重を訴えたほか、吉見投手からは「困っている人に声をかける」といったチームワークに通ずる話も語られ、皆さんも真剣に耳を傾けていました。



▲安全大会

東京支店



東京支店 工事部

Mさん

開催日: 2026年6月12日(金)

実施場所: ビジョンセンター田町 参加人数: 協力を会社を含め約200名

プログラムの内容: 決算報告、事故災害事例の共有、特別講演、各種表彰、懇親会

熱中症対策の講演

最新の熱中症対策グッズを体験

株式会社ヴィプロス様より講師をお招きし、熱中症対策グッズ「フリーズショット」の実演講演を行っていただきました。現場の鉄板上では体感温度が40℃近くに達するため、ベテランの作業員でも熱中症の危険性があります。元請による対策に加え、当社全体で危機意識を高める必要があり、今回は良い機会になったのではないのでしょうか。各自に配布された製品は、それぞれの現場で実際に試す予定です。

安全大会▼



当日の様子と印象

協力会社の部長からの声掛けでモチベーションアップ

普段は別々の現場で働く協力会社の方々や、他営業所の職員と直接交流できる貴重な場でした。懇親会では、入社1年目の大変な時期にお世話になった協力会社の部長から「あのときはよく頑張ったね」と声をかけていただく場面も。仕事へのモチベーションも高まりました。

懇親会▶



総括

初心に返り、安全な現場づくりを徹底

過去の災害事例を改めて確認し、熱中症への具体的な対策を学んだことで、身を引き締める良いきっかけになりました。日々の業務に慣れると油断が生じやすくなるため、今後も現場の状況を注意深く見守り、安全な現場づくりに努めます。

最前線レポート

名古屋市西区丸野二丁目地内土壌等汚染対策工事

太洋基礎工業が担当した、さまざまな現場を紹介するこの企画。今回は、愛知県名古屋市で行われた土壌汚染対策工事です。他社と施工エリアが重なり合う厳しい環境下において、お互いの作業を止めることなく完遂させた、綿密な工程調整と連携の裏側に迫ります。

現場概要

現場名	名古屋市西区丸野二丁目地内土壌等汚染対策工事
施工期間	2025年9月1日～2025年12月24日
場所	愛知県名古屋市西区丸野二丁目211-7
発注者	名古屋市上下水道局
元請	株式会社フジタ
現場の人数	太洋基礎工業 2 名、協力会社 5 名
施工目的	10m四方に区切られた29の区画において、パーカッションドリルにて注入井戸管(139本)を2.2m～16.2m建て込み、薬剤「クロロクリン」(微生物栄養剤)を注入して行う土壌の浄化



東京支店
環境開発部 課長

Sさん



現場の特徴

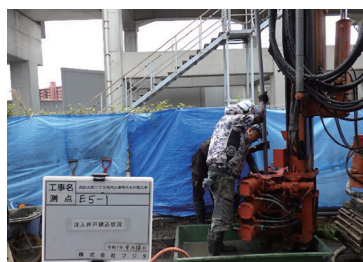
他社が施工できない境界際を多点注入工法で対応

協力会社と共同で施工を進めた現場です。協力会社が使用する大型の地盤改良機では施工が困難な官民境界に隣接する狭いエリアがあることがわかり、その限定されたスペースの施工を当社から提案し、らせていただくことになりました。大型機械が入らない狭隘な空間に対して、当社の「多点注入工法」を用いてきめ細かく施工を行うことで、現場全体の進行を連携して支えました。

苦 労した点と乗り越え方

日々の緊密な打ち合わせで施工のバッティングを回避

今回の工事では、協力会社が地盤改良機で施工する前に、当社が先回りで注入井戸管を設置しなければなりません。作業エリアが重なり合うため、お互いの施工順序や工程調整には非常に頭を悩ませました。



▲注入井戸建込状況

そこで、元請や協力会社の担当者と毎日打ち合わせを行い、翌日以降の施工位置を細かく確認。隙間の時間を縫うように連携を密にしたことで、作業のバッティングを防ぎ、お互いがスムーズに動けるように工夫しました。同現場で協力して作業を進められた実績が評価され、後日、別の現場でも同協力会社から対応が難しい施工について協力の要請をいただくなど、次の仕事につながる信頼関係を築くことができました。



▲施工状況全景



▲プラント全景

現場を振り返って

周囲の配慮とチーム一丸の対策で乗り越えた過酷な猛暑

昨年9月からの約2か月間は大変暑さが厳しく、日陰も少なかったため熱中症対策が不可欠でした。無事に工期内で工事を完了させるべく、こまめに休憩を挟むなど、全員で体調を気遣い合いました。また、元請が事務所の自動販売機で、飲料水を“無償”で提供してくださったことも、過酷な環境下で働くメンバーにとって大きな励みとなりました。こうした元請や協力会社の皆さんによる配慮と支えがあったからこそ、無事に施工を完了させることができました。現場が無事に完了した今、この場を借りて、深く感謝申し上げます。



▲浄化材注入状況

新たな環境での気づき

2026年4月に名古屋支店から静岡支店へ異動しました。同じ公共工事の担当でも、地域が変われば仕様や仕事の進め方が異なります。これまでのやり方に固執するのではなく、地元の関係者の皆様が築き上げてきた方法やコミュニケーションを尊重することが大切です。まずは自分が新しい環境に合わせていく努力が必要だと感じており、ゼロから学び直す姿勢で日々の業務に取り組んでいます。

IT化と働き方改革

支店が変わり、部長という立場になったことで、今後の組織のあり方を考えることが増えました。特に注力したいのが、業務のIT化による労働時間の削減です。現場管理という基本を大切にしながらも、隙間時間を活用して現場で完了できるデスクワークの仕組みを整えたいと考えています。2～3年かけて徐々に環境を改善し、皆が働きやすい効率的な職場づくりを進めます。

声援



静岡支店 工事事務部
部長

Hさん

👑 月間MVP賞 👑

受賞者

東京支店 工事事務部 課長 Oさん

推薦理由

株式会社ホープ様より、2026年度安全衛生推進大会において「優良職長賞」と「安全努力賞」を同時に受賞されることになりました。

長期間にわたる夜間作業においても集中力を維持し、安全と品質を確保した結果です。ここに、月間MVP賞に推薦いたします。

(推薦者 東京支店 工事事務部 部長 Sさん)

受賞者

九州支店 工事事務部 課長 Tさん

推薦理由

鶯川第2排水区雨水管渠築造工事(2期工事)において、株式会社浅沼組様より安全優良職長として表彰されました。また、九州支店工事事務部としても初の受賞者となりました。

共に携わったT主任・I部員を含む3名の代表として、月間MVP賞へ推薦いたします。

(推薦者 執行役員 九州支店長 Yさん)

※月間MVP賞は当社社員だけではなく、協力会社の皆さまも表彰の対象となっています。自薦、他薦は問いません。多くの受賞者が出ることを期待しています。